

三重の土地改良アラカルト

広域農道事業中南勢2期地区 松阪工区の開通について

松阪農林商工環境事務所農村基盤室基盤整備2課
主査 梅村竜也

1. はじめに

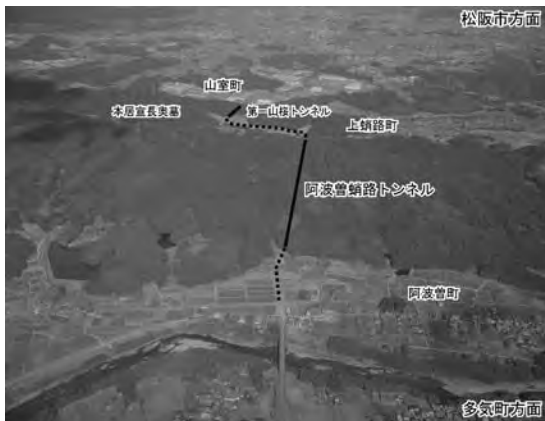
平成24年5月31日、広域農道事業中南勢2期地区松阪工区（以下、本農道と表記）は、地域住民の大きな希望に包まれて開通しました（写真①）。本農道は、平成12年に事業採択をされてから完成までに10年以上の年月を要しており、農道の開通は関係者にとって悲願でした。これにより、松阪市、多気町、明和町、大台町等のさらなる社会・経済的な一体性の向上が期待されています。



写真①

2. 広域農道の位置

本農道は、松阪市の南端を流れる櫛田川沿いにある、阿波曾町から上蛸路町を通り、山室町を結ぶ延長L=2.4kmの路線です。この路線は、L=970mの阿波曾蛸路トンネル、L=268mの第一山桜トンネルなどで構成されており、路線の約半分がトンネルとなっています（写真②）。



写真②

3. これまでの歩み

本農道は、平成12年度の調査・測量・設計に始まり、平成15～23年度にかけて路体工事、平成15～17年度にかけて第一山桜トンネル（L=268m）、平成20～22年度にかけて阿波曾蛸路トンネル（L=970m）、平成21年度には、上蛸路大橋（L=17m）、平成22～24年度にかけて舗装工事を行ない完成に至りました。

4. 業務から学んだもの

私が本農道を担当したのは、平成23年度からですが、業務引継ぎの際に先輩からご指摘いただいた最大のポイントは調整力を要するという点でした。これは地域住民の公共事業に対する最大限の協力が、ある期待や要求を生み、それが肥大化する傾向が強くなっていることを指摘するものでした。私はこのアドバイスを大切にしつつ、地域住民と何度も繰返し議論を重ねてまいりました。その時感じたのは、みなさんの地域をより良くしたい気持ちが強いということでした。私はその意気込みに触れるにつれ、「出来ません」から「考えてみます」という返答をするようになっていったのを覚えています。

次に、工区の完成を目前にしつつ工事を進捗するにあたり、これまでの道程や結果を検証し、工事の全体像をつかむとともに、潜んでいるリスクについて学びました。

① 路線の全体計画について

農道整備事業の目的は、農業生産性の向上、農業生産の近代化、農産物流通の合理化ですが、これら農業効果以外にも農村生活環境改善、都市農村交流促進等の多面的効果があります。農村生活者の定住を促進し、地域活性化を図っていくためには、生活利便性の改善が重要であり、農道整備による農村から都市へのアクセス改善は生活利便性改善に大きな効果が期待できます。また、都市農村交流の拡大による地域活性化を促進する効果も期待できます。本農道は、これら効果の早期発現が期待できる位置に計画されており、この計画策定に参画されていた先輩方の先見性に驚愕いたしました。開通後、しばらく経過した現在の利用状況のみをみても、周辺のダイナミックな変動を十分感じることが出来ます。

② トンネル工事のリスクマネジメント

トンネル工事の潜在リスクについては、着工前の想定は可能ですが、よりよい工事の進捗のためには、きめ細やかな現地調査が必要であること知りました。とりわけ、騒音・振動、地下水（井戸）については、影響するエリアの設定において、その周辺の歴史的背景なども聞き取る作業が重要であることを学びました。

③ 供用開始後のリスクマネジメント

供用開始後に発生が予想される各種災害事案に対応するため、県が主催し、消防、警察、松阪市と合同で防災訓練を実施しました。これにより、二次災害防止活動を迅速かつ的確に展開するためには、連絡体制の確立が重要であることを学びました。

5. おわりに

本農道は、周辺地域住民の方々のご理解や多くの関係者のご尽力により、幾多の困難を乗り越え、開通することができました。とりわけ、歴代自治会長様、松阪市辻本様、施工業者様、松尾氏、酒徳氏、池本氏ら先輩たちの不屈の精神は、後輩たちに語り、模範事例として伝えていく所存です。みなさま、おつかれさまでした。ありがとうございました。